

天神幟

匠 瑛 探 訪

152

今年5月、元号が「平成」から新たなものになります。地域に残る墓石や古文書などには江戸時代の元号や干支えとが見られ、今回紹介する「天神幟のほり」にもあります。

幟は、神社の祭礼などで立てる旗のことをいいます。米倉（中央地区）の西光寺が所蔵する幟には、「奉納 天満天神宮」、文化九（1812）年壬申正月吉辰みずのえしん（めでたい日のこと。吉日）と染

め抜かれています。また、幟を納める箱には、文政九（1826）年丙戌正月吉日「天満宮 御幟 一本」と書かれ、惣氏子中、世話人8人の名もありません。

この幟に関して、分からないことがあります。一つ目は、この幟にある「天満宮」がどこに存在したかということです。

現在の葦芽神社（米倉）には、境内の石祠せきし（石の宮）にも天満宮が見

当たりません。可能性として考えられるのは、旧等妙寺境内の墓地に3基、江戸時代後期から明治にかけて寺子屋師匠の墓・筆子塚ふでこづかがあり、これと関連したものかも知れません。

二つ目は、この幟を「西町講中」が奉納したことです。

当時の米倉村は家数120余戸の比較的大きな村で、家並みが町場化し、村内に西町が存在したことを示すものといえます。

幟と箱は、「初天神」にあたる正月に奉納されました。

（注）米倉・アシガヤ神社は、「葦茅」が一般使用されていますが、今回は『千葉県宗教学人名簿』に記載された神社名にならい「葦芽」と表記しました。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問 秘書課 広報広聴班 ☎ 73・00

80



西光寺に所蔵の天神幟